

「愛知の幼児教育指針」(案) に対する意見の内容と県の考え方について

		意見の内容	県の考え方
1	P 5 幼児期に育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> 現在の小学校指導要領においては、言語活動の充実が重点となっている。「態度」にある思いの表現力、聞く・伝える能力の伸長は、幼保小の円滑な接続においても重要であると思う。コミュニケーション能力の伸長を意識した教育課程・保育課程の編成が必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘の点については、愛知県幼児教育研究協議会で、平成 24・25 年度の協議題を「小学校教育を見通した幼児期の教育を考える～接続期における教育課程・保育課程の編成に向けて～」とし、アプローチカリキュラム編成の手引きの作成に取り組んでいます。その中でコミュニケーション能力を育てていくための指導についても検討していく方向です。
2	P 7・P 8 具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 幼児を取り巻く環境 (P4) の中に触れられているように、半数以上の保護者が子育てに対する「悩み」「不安」をもっていることから、園・所での幼児に対する支援とともに保護者へのサポートが大切になってくる。園・所内支援委員会と専門機関との連携体制の構築が必要となってくると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「重点目標 (3) 家庭や地域社会との連携の推進」の中で記述しておりますが、御指摘のように、園・所内支援委員会と専門機関との連携の構築が必要と考え、今後も重視していきたいと思えます。
3	P 9 重点目標 (2) 保育者の資質及び専門性の向上 P10 (3) 家庭や地域社会との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 小学校で5年生から英語が必須化されたのを受け、英語の早期習得を求める保護者が多い。保育園・幼稚園内においても、英語を使った指導を求められるが、どう指導してよいのか判らない保育士・教諭が多い。これからの時代、外国人の子どもが入園する可能性も多く、また保育士・教諭自身のスキルアップのため、英会話学習、幼児英会話指導の研修が必要。 地域という観点から、近隣に住むネイティブスピーカーと園との連携を促してはどうか。地元で英会話学校を運営しているネイティブも多く、双方にとって有用だと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル社会の中、幼児を取り巻く言語環境の一つとして、御指摘の英語があると思えますが、幼稚園教育要領の領域「言葉」で目指すのは、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことです。 現在、課題となっているコミュニケーション能力を育成するためには、基礎であるこれらの意欲や態度、表現する力を育てていくことを、第一に考えていきたいと思えます。

4		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「あいちの教育」を軸にして、幼稚園教育要領並びに保育所保育指針の重要事項が確かな言葉で述べられていて分かりやすい。説得力がある。 この指針をどのように活用されるのか、つまり、県教育委員会が市や町、各種団体（幼・保）にどんな働きかけや指導を行うのかという点に大きな期待をする。冊子配付だけでは、効果は不十分だと思うし、これだけの内容をもつ指針について解説と指導がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の参考とさせていただきます。
5		<ul style="list-style-type: none"> ・ 今、現在の愛知の幼児教育の実態をふまえて、「今ここで」強調したいこと、「これまでもこれからも」愛知の幼児教育の基本として大切なことをコンパクトにまとめた優れたものだと思います。 幼稚園教育要領・保育所保育指針の場合のように説明した解説書の発刊が待たれます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の参考とさせていただきます。